

復興途上 再生に向かう人々

2025年12月16日。今回は仙台から入る。展望台に立つと、こレイルで唯一の登山路でふくしま浜街道トレイルり、南へ向かう行程を選れまで歩いてきた長い道ある鹿狼山へ向かい、鈴も、残すところ新地町かんだ。まず新地町の磯山のりが、ようやく実感と宇味登山口から登り始めら鹿島駅までとなった。展望緑地（トレイル北端して胸に迫ってきた。標高430級の低山といよいよ最後の歩きであのターミナル）に立ち寄 磯山展望緑地から、トとはい急登が続き、息

が上がる。ようやく山頂「奇跡の藤」があり、いに立つと、眼下には太平洋まも力強く根を張っている

たものの、塩害を取り除暮らしを立て直してきくことができず、いまはた。その再生の力は、私太陽光発電用地となつてたちにも受け継がれていいる。風景の変化に複雑るはずだ。そのとき、津波に耐えて立ち続けた「かしまの一本松」や「奇跡の藤」の姿が、ふと頭をよぎった。福島は必ず復興する。その確信を胸に、列車に乗り込んだ。

ふくしま浜街道トレイル



だった。災害の多い日本では、先人たちは幾度も苦難を乗り越えながら

翌朝、宿の「鹿狼の湯」を出発し、松川浦へ向かう。松川浦は相馬市原釜と磯部の間に広がる潟湖で、白砂青松の景勝地として知られる。震災時には潟の縁を津波が乗り越え、内海にも大波が押し寄せたという。笠岩公園には、津波に流された花を咲かせたに田畑の再生が試みられ

松川浦大橋



いまも力強く根を張る「奇跡の藤」

